

# 大和地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年7月12日（火） 19:00～20:05

2 会 場 大和地区公民館

3 出席者 地元出席者 23名  
市側出席者 14名

深澤市長、羽場副市長、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、大田経済観光部長、綱田都市整備部長、中島総務部次長、森山危機管理課長、渡邊秘書課長

<事務局>福島協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

## 4 中核市移行についての説明

（中核市推進局長）※チラシに基づき説明

## 5 第10次総合計画についての説明

（企画推進部長）※チラシに基づき説明

## 6 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

中核市移行の説明では保健衛生分野が多いとのことでしたが、保健所の場所は具体的に決まっていますか。

（中核市推進局長）

現在の保健所は、江津の福祉保健事務所と立川にある東部総合庁舎内にある生活環境事務所の2か所に分かれています。これを駅南庁舎の一つにまとめて整備したいと考えています。ただ、駅南庁舎は現在も庁舎として活用していますので、新庁舎が完成して駅南庁舎から引っ越しが完了した後に、保健所としての執務を開始することになります。引っ越しが完了するまでの間は、許認可関係の事務をしている東部総合庁舎はそのまま活用していくよう、県と協議しているところです。また、江津の福祉保健事務所については、中央病院の建て替えに伴って使用できなくなるとのことですので、さざんか会館を暫定的な保健所として整備していく計画で準備を進めているところです。

（地元意見）

中核市移行により県から事務が移譲され、市民に身近な手続きがワンストップでできるようになるという概略は分かるのですが、例えば大和地区などの中山間地域にとってどういった問題が解決するのか、どのようなメリットがあるのか、漠然としていて分かりません。

(深澤市長)

中核市移行に際して、県から市に移譲される事務のうち一番大きなものは保健所業務で、これを含めて2, 211の事務が市に移譲されます。

身近な事務もあります。例えば福祉関係では、身体障害者手帳の交付事務は県の業務であるため、現在は、鳥取市の窓口で申請を受けて県に送り、県が障がいの等級や障がい名を決定して手帳を作成し、それをまた市が受け取って申請者に連絡して受け取りに来ていただくという流れでした。中核市に移行すると、直接市が申請をお受けして障がいの等級や障がい名を決定し、申請者に連絡して受け取りに来ていただくという流れになり、申請から受け取りまでの期間が確実に短くなります。また、「これは県に確認します」と言うことがなくなり、市が責任を持ってご説明させていただくようになるため、非常に住民サービス向上につながります。

母子・寡婦福祉資金の貸し付けも県から市に移譲されます。先に中核市に移行しておられる倉敷市などに聞くと、利用件数等も増加しているそうです。住民サービスが、より身近に、より便利になると言えます。

中山間地域が便利になるかというご質問をいただきましたが、このように、手続きの日数が短くなったり、直接市の窓口で皆様にご説明させていただく場面が、全市的に増えてくると思っています。

また、山陰地方で中核市移行の要件を満たすのは、松江市と鳥取市だけです。

「山陰の中心は松江市であり中海圏域である」ということになれば、鳥取県東部圏域の存在感が非常に薄くなります。例えば企業が進出先を検討する時も、中核市であれば交通網が整備されているという視点を持っていただけるなど、将来さまざまなことで影響があると思っています。まさに将来を見据えて、今こういった選択をしていくべきだと思っています。

我々の次の世代、またその次の世代のための取り組みでもあるということが非常に大切な部分だと思っています。

(中核市推進局長)

市は、中核市移行について2つの意義を考えています。

一つには、中山間地域が多く高齢化が進行していく中で、地域の皆様は健康への不安など多くの問題を抱えておられると思います。またその一方で、核家族化が進む中で子育てに不安を抱えておられる子育て世代の方も多くいらっしゃると思います。中核市移行にあたって、駅南庁舎を健康づくりと子育て支援の総合拠点にすることとしており、皆様のそういった一つ一つのご相談に丁寧に対応していけるような体制を整備し、サービスの充実を図っていきたいと考えています。

二つ目として、中核市移行というのは都市制度の話でもあります。インフラの整備や経済基盤の整備等、この山陰東部圏域の発展に向けて将来の基礎をつくっていかねばならないと考えています。

(地元意見)

「こういう問題が今よりも便利になるから、鳥取市として将来の発展のために中核市に

移行するのだ」ということを、イラストや漫画で作成されてはどうでしょうか。

選挙も18歳以下に年齢が引き下げられました。将来を担う若い人達に考えてもらえる形を考えてはどうかと思います。

(中核市推進局長)

いただいたご提案を大切に受け止めたいと思います。今後、秋には市民の皆様を対象としたシンポジウムの開催も計画しています。

来年度は、よりきめ細かな情報提供もしていきたいと考えていますので、そういったところで十分留意させていただきたいと思います。ありがとうございました。

(地元意見)

玉津にある鶴尾城跡の整備について、市の所見をお伺いします。

鶴尾城跡というのは、山陰の戦国武将である武田高信の拠点として知られており、価値ある遺跡はないかもしれませんが、大小さまざまな城郭の跡があったり、空堀の跡が見られると言われています。城山の中腹には鶴尾神社があり、山頂の本丸跡から、遠くは日本海、鳥取城や鳥取平野が一望できるという非常に眺めの良いところです。



低い山で気軽に登れる山でもあります。これまで玉津では、訪れる人のために、玉津地内の鶴尾城跡入り口を標柱で示したり、毎年総事で城山の山頂までの「道づくり」として草刈り機やチェーンソーを持って整備をしてきました。

これまで市にも現地の説明板や登山道の整備などをしていただき、良くなってきているのですが、近年は山歩き等で多くの方が訪ねてきます。特に、5月に「近くにこんなすてきな山が」というタイトルで新聞で紹介されてからは非常に人が増え、城山の道を尋ねられる光景もしばしばです。

玉津では集落案内板に鶴尾城跡を標示していますし、道の途中にイノシシ柵のゲートを4か所ほど設置しているため、その取り扱い方法を書いたりしています。ただ、城跡入り口の標柱も古くなって見えづらくなってきていますし、「道づくり」も高齢化によりしづらくなってきています。

集落としては、市民が訪れやすく楽しめるエリアとして整備していくことが必要だと考えています。次の3点について、検討いただきたいです。

一つ目は、県道入り口の標柱の取り換え、各案内標識や説明板の充実、訪れる方が簡単に開閉できるイノシシゲートの設置、駐車場の整備です。

二つ目は、毎年実施する「道づくり」への支援として、助言や支援がいただければありがたいと思います。

三つ目は少し大きな課題になりますが、「史跡指定」と「公園化」です。例えば、武田高

信の最期は未解明な部分もありますが、昭和55年には河原町佐貫の大義寺にある高信の墓が史跡に指定されています。近くでもありますし、関連して鶴尾城跡の史跡指定に向けてもう少し詳細な調査を進めてもらい、ぜひ実現できる方向で支援をいただけたらと思います。

#### (地元意見)

鶴尾城の武田高信の父は福井県小浜市から来ています。鳥取市のあるグループは、福井に行って山を散策してきたこともあります。また、鳥取市には鶴尾城に関心を持っている人が30人程度おられ、因幡民談記以上の研究をしておられます。

10年ほど前、文化課が800万円の予算をつけて道を整備しました。この道を上ると約20分かかります。久松山のようにきついですが、裏側の神戸入り口から高路に抜ける舗装された道から登ると、10分程度で登れます。これも当時の文化課の係長と一緒に歩いてみて、300万円程度かければ整備できるという話でしたが、その後うやむやになっています。この裏に4、5台自動車を止められる駐車場もありますので、これを整備していただけたらと思います。

8月11日は山の日です。今、里山登山が増えています。東部地区一円の山城としては久松山が代表ですが、布勢の天神山城、用瀬の影石城なども整備されています。将来に向けて、玉津の鶴尾城を整備してほしいです。

鶴尾城と赤子田城は、「日本の城郭大系」に掲載されています。それぐらい有名なのです。大和には、他にも良い史跡があります。鳥取自動車道ができた時には倭文の山から古墳時代の鎧と冑が出ています。また、武田高信がなぜ最近になって郷土史家に関心を持たれるかという、この地は織田軍と毛利軍の境目になり、戦場になりました。その時、武田高信は毛利軍について織田軍に負けたのです。中世は非常に下克上が盛んです。その中で負けたから没しているのですが、鎧、冑と併せ、これはぜひ中学校の教材にしてほしいです。横枕から千代川に向けて扇状地が広がっていて、大和地区公民館は扇端にあたり、横枕は扇頂にあたります。河岸段丘にもなっており非常に有効な地形ですので、これも教材になると思います。

#### (深澤市長)

歴史的な史実等も詳しくご紹介いただきました。

武田国信は、若狭の国、小浜市から来たということでしたが、小浜市は海城でも有名です。そういった歴史的な史実は鳥取にもたくさんあり、そういったことを大切にしていくことは非常に重要だと思っています。

鶴尾城は標高が268mです。久松山が263mですので、山頂からは日本海も市街地も一望できる非常に素晴らしい所だと思いますし、城郭の状況もまだ残っていると聞いています。文化財等の指定について教育委員会で検討した経緯もありますが、まずは地域の皆様と一緒に整備、保存等に取り組んでいくことが必要ではないかと考えています。今後もいろいろな検討を重ねていく中では文化財指定等についてもしっかり考えていきたいと思っていますが、現時点では具体的には考えていないところです。

標柱や案内板等、登山道等の整備については、一度に実施することはなかなか難しいで

すが、先ほど神戸高路ルートもご紹介いただきました。そういったことも含めて、今後どのような手法で整備が可能なのか、具体的な検討を進めていきたいと思いますが、いろいろな取り組み等の支援制度もありますので、ここで少しご紹介させていただきたいと思います。

(地域振興局長)

市の支援としては、大和地区の協働の取り組みを支援する「コミュニティ育成支援事業」があります。

また、「中山間地域の振興」という視点では、玉津集落としてでも任意団体としてでも取り組んでいただける事業として、「輝く中山間地域創出モデル事業」や、「里山交流促進モデル事業」というソフト事業もあります。

「輝く中山間地域創出モデル事業」は、計画策定等の補助率は10/10で、事業としては、上限200万円の事業枠に対し8/10を、3年にわたって支援させていただきますので、看板の設置など、史跡保存に関するさまざまな整備への支援が可能になると思います。

また、高齢化により作業が大変とのことでした。「里山交流」、「むらまち交流」と呼ばれる、まちなかの人に来ていただいて共同作業をすることもできると思いますし、鳥取大学の学生が中心になっている「人材バンク」もありますので、学生の支援を受けて実行することもできると思います。

8月11日の「山の日」の話がありましたが、今年から山の日が制定されます。用瀬では地元の方が熱心に山を管理しておられ、地域の方が整備に参加できる取り組みをされています。昨年、そういった取り組みが注目され、用瀬アルプスは標高が1,000mもないような低い山ですが、国土地理院が智頭町と用瀬町、県と連携して登山道調査を実施しました。このような取り組みから、今後、因幡の低い山を散策してもらえようPRしていこうという話も進めています。

中山間地域のソフト事業として、美穂地区では郷土史を作成して地域を活性化しようと取り組まれており、その中で玉津の城跡を見学する計画を立てておられます。

多くの地域の皆様にそういった取り組みをしていただきたいと思いますし、実際に取り組まれる際には、地域振興局地域振興課にいる中山間地域振興推進員が計画の相談に伺いたいと思います。

(地元意見)

私は、定年退職してから農業に力を入れています。昨今、高齢化や担い手不足などで農業離れが増加し、担い手不足が進んでいます。その中で今、集落営農というものが始まっているようですが、何%以上という要件があるようなので、ハードルをもう少し低くして取り組みやすくしてほしいです。

(深澤市長)

集落営農は少しハードルが高く手間がかかる、いろいろな面でもう少し活用しやすくしてほしいというご意見は、よくいただいています。担い手不足や就農者の方の高齢化等が



進展しており、耕作放棄地の増加等も懸念されていることから、農地の中間管理機構等も始まりましたが、まだまだこれからだと思っていますので、いろいろな取り組みを総合的に考えて検討したいと思います。今すぐには難しいと思いますが、趣旨は十分受けとめさせていただきますと思います。

(地元意見)

布袋工業団地は大造成ですが、工場はいくつ来る予定になっていますか。工場が来れば雇用が増えると思います。

(経済観光部長)

現在、河原町では布袋工業団地と山手工業団地の2つを進めています。このうち布袋工業団地は全体が14haで、現在は一期工事を行っています。建物も見えてきていますが、株式会社ササヤマはもう立地して本年9月には操業される予定です。その裏は豆乳の日本のシェアで大きなウェートを占めているマルサンアイ株式会社です。こちらは来年7月頃、できれば6月頃に操業したいと考えておられます。また、株式会社ササヤマは37名、マルサンアイ株式会社は100名の雇用を計画されています。もともと正社員の比率が非常に高い企業です。現在はこの2社ですが、残りは順次工事していくことにしています。区割りの関係もありますが、2社か3社は来ていただきたいと思っています。

山手工業団地についても、先日株式会社イナテックが操業されました。また、南吉方の鳥取三洋電機跡地も、今月には株式会社源吉兆庵が操業されますし、共和薬品工業株式会社もあります。

鳥取市では、鳥取三洋電機の影響で雇用が特に落ち込んでいる中、雇用の枠の拡大に力を入れています。今では逆に、人材確保の方が課題になっています。皆様も、市外に出られているご家族がおられたら、鳥取に帰って働いていただけるようお声掛けをお願いします。

(地元意見)

鳥取市内にも高等学校や大学がありますが、卒業すれば県外に就職される人が多く、鳥取市にはなかなか残らないと思います。雇用が増えればこういうことにも影響してくると思います。

(経済観光部長)

高校生については、東部は比較的地元に残りたいという希望が多く、85%程度が地元に残りたいと希望し、希望した高校生は100%雇用されている状況です。

大学は、公立鳥取環境大学と鳥取大学がありますが、地元出身者は2割しかおられません。その2割の方にはできるだけ鳥取に残っていただけるように、併せて、地元の人に大学に入学していただいて地元定着していただけるように、今、大学等と連携して取り組んでいるところです。

また、市外に出られた方にUJIターンでいかに戻ってきていただくかということで、鳥取県や各種団体、組織と一緒に、雇用情報を流すなどの取り組みに力を入れています。

るところです。

(地元意見)

大型店舗が来るという話を聞きましたが、計画がありますか。

(経済観光部長)

大規模店舗の場合、正式な手続きとしては、きちんと申請があって縦覧という手順を踏むこととなります。現時点で申請はありませんが、私も話は聞いています。

(地元意見)

玉津には以前、大和小学校がありました。その大和小学校が美穂の小学校と統合後、跡地には鳥取三洋電機の下請工場がきました。その後工場が入れ替わったこともありますが、平成26年にパイオニア精工が本高の工業団地に進出した際に、玉津にあったパイオニアメタルパーツが吸収され、玉津工場ではプレス部門だけが残り事業を続けていました。そして、そのプレス部門も本高に移行することとなり、現時点で建物は解体され更地になっています。

玉津としては、身近なところでもあり、跡地の利用計画や雑草の管理などが心配です。せっかく広い土地なので、できれば歩道用の土地を少し分けてほしいです。これは以前からの懸案事項でもあり、地域住民は関心を持って見えています。

工場跡地の今後の計画を把握しているなら、教えてください。

(経済観光部長)

パイオニア精工株式会社は、精密金属部品の企画開発から金型設計、プレス加工を行っている企業で、平成26年9月に本社がある姫路から本高に企業進出されました。現在は従業員112名の会社です。

玉津にあるパイオニアメタルパーツ株式会社(※)は、パイオニア精工の関連会社で、平成16年7月に玉津で操業を開始されました。現在では3棟あった建物のうち2棟を壊され、残る1棟でプレス加工を行っておられます。

玉津工場については、パイオニア精工の当初の事業計画から、進出に併せて統合するとなっていました。今年の秋頃までには、玉津工場の従業員も含め、プレス設備をパイオニア精工に完全に移されると伺っています。

取り壊した2棟の建物はかなり老朽化が進んでいたため、周辺の安全性を考慮した上での処置だと聞いていますし、更地部分は小石などを敷き詰めて雑草対策も行われるとのことで、いずれについても周辺に悪影響がないよう配慮すると伺っています。

残る1棟については、複数企業から賃貸の申し込みがあると聞いています。状況を見ながら判断されるとのことですが、もし話が決まれば、製造関係の会社が入られるそうです。

土地は、パイオニア精工が所有されています。

(※平成16年当時 パイオニアメタルパーツ有限会社)

(都市整備部長)

歩道整備については平成23年度から要望をいただいております、児童の通学の安全確保の観点から、平成26年に通学路の合同点検を実施し、道路の外側線の位置を少し変更した上でグリーン舗装を施工しています。平成27年3月には、徐行標識や、「徐行」の文字も設置しています。

このような安全対策をとらせていただきましたので、当面は様子を見させていただきたいと考えています。

(地元意見)

市役所の玄関に掲示されている名誉市民の写真を見て、いつも不満に思っていることがあります。大和地区から出た高田勇さんを掲示してほしいです。高田氏は、昭和27年の鳥取大火の復興にご尽力されました。若桜街道を拡幅して3階建てのビル街にされたのも高田氏です。

また、高田氏は鳥取三洋電機の誘致に大変功績があります。鳥取三洋電機には、2千〜3千人が勤務し、下請けは80社あったため鳥取市東部は大変潤い、経済的に豊かになりました。

しゃんしゃん祭りをつくったのも高田氏です。横枕の高山さんという方が振り付けをされたという話も聞いています。このことは横枕の公民館にもきちんと記述してあります。

この3つを考えると、高田勇さんが名誉市民から外れていることがどうしても不満でかたないません。新庁舎完成の折には、ぜひとも高田勇さんを名誉市民として写真を掲げていただきたい。名誉市民を選考し直してほしいです。

(深澤市長)

ここで良い回答をさせていただけないのが残念ですが、高田元市長の功績を3点挙げていただきました。その他にも非常に素晴らしい功績を残していただいていると私は常々感じています。

鳥取三洋電機の誘致は高田市政のクリーンヒットだと言われておりますし、昭和27年4月17日に発生し市街地の2/3にあたる160haが焼失した鳥取大火の時には、全国で第一号の防火帯といわれる若桜街道が整備されました。全国に先駆けた取り組みで、非常に大きな功績だと思います。しゃんしゃん祭りも今年が第52回となり、半世紀を経過しました。鳥取の祭りから日本の祭りへ、そして世界の祭りへと大きく飛躍してきています。その礎を築かれたのが高田氏であることも重々承知しております。

平成31年に、鳥取市制施行130周年になると思います。そういった折に名誉市民の議論もあり得るのではないかと考えていますので、いろいろな視点から、また名誉市民についての議論も期待していきたいと思っています。

## 7 市長あいさつ

大変限られた時間でしたが、非常に活発なご意見やご提言をいただきました。できる限り取り組んでまいりたいと思っています。

鴨尾城の整備につきましても、一挙に歩道等を全部整備するというのはなかなか難しい面がありますが、こういった素晴らしい史跡を大切に、また多くの皆様にご紹介し知っ



ていただくことも必要ではないかと思ひますし、そういった中で、整備についての機運も高まってくるのではないかと思ひます。当面は、地域の皆様に整備等々で非常にお世話になっており、改めて感謝申し上げたいと思ひますが、中山間地域のいろいろな事業等の中にご活用いただけるメニューもありますので、具体的なお話を地域振興局にご一報いただければ大変ありがたいと思ひます。

この地域づくり懇談会は2年に一度の開催ですので、いろいろな機会にご意見やご提言等をお寄せいただければ大変ありがたいと思ひます。

熱心にご議論いただいたことに心から感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。